

スタートする

もがみ北部商工会

新たな創造と組織の活性化、交流拡大を



金山の夏の風物詩にもなっている金山町商工会主催の「自然祭・グリーン市」は、会員の息の合った連携プレーでサービス満点！



「商工会」とは、1960（昭和35）年に公布された「商工会法」に基づいて、経済産業大臣の認可を受けて設立されている特別認可法人で、地域内商工業者の経営改善に関する相談や指導のほか、地域経済の振興を図るための活動や社会一般の福祉の増進に資することを目的に、幅広い活動を行う組織です。

全国的に商工会組織の広域合併が進められている中で、将来に向けた商工会組織のあり方について、これまで多くの議論が重ねられてきた結果、金山町、真室川町、鮭川村、戸沢村の4商工会が合併することが決まり、4月から新たに「もがみ北部商工会」がスタートします。

商工会の今後に向けた所感を、金山町商工会の白倉周二会長から寄せていただきました。

会員数は現在217業者（商業127、工業83、定款会員7）。設立から50年の年月を経、わが町経済の発展はもとより、雇用・就業機会の確保や食糧品をはじめとする生活物資の流通販売などを含め、私たちの生活基盤の担い手として町民とは切っても切れない存在となっている金山町商工会。広域合併のメリットが生かされ、町内の商工業が真に活性化してほしいという町民の期待は、ますます高まっています。

シリーズ

かねやまの産業を見つめる

住み良いまちの基盤づくりへ

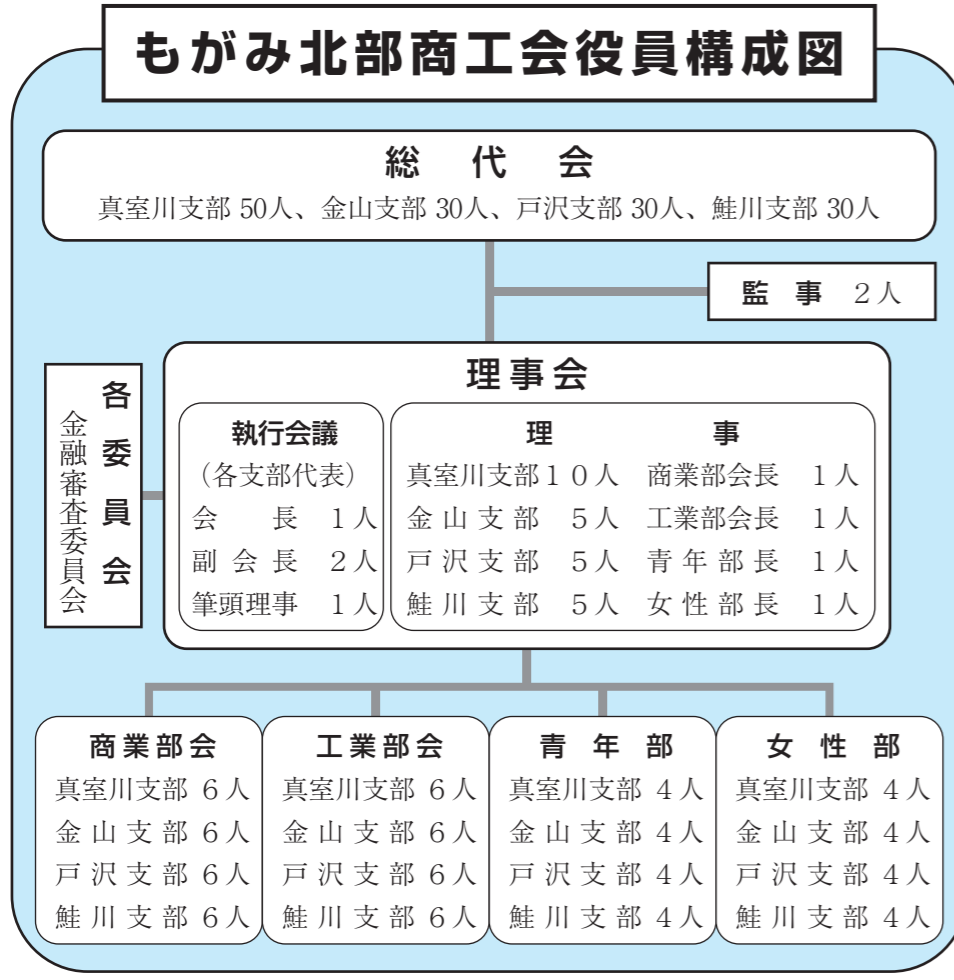
地場産業の活性化と地域経済の振興は、地域住民が安定した暮らしを営むための基盤づくりに最も重要な課題の一つです。

人口の減少や少子高齢化、産業構造の変化、経済の低迷などさまざまな要因で地域の産業は大変厳しい局面に追いやられてきている今こそ、この町の産業というものを、みんなで今一度見つめなおし、明日の金山町の産業のあり方に関する課題や展望を共有し合うことが求められているのではないのでしょうか。

農山村のこれからは、第1次産業の農林業と第2次・第3次産業の商工業の連携・融合による第6次産業の時代とも言われます。みんなさんと一緒に考え、知恵を出し合いたいものです。みなさんからのご意見・ご感想をお待ちしています。

商工会の最高決定機関は、これまで会員全員が議決権を有する総会でしたが、「もがみ北部商工会」になると、各支部から選出された総代（140人）による総代会となります。

選出された理事で構成する理事会が運営機関となります。事務局は本所において統括管理されますが、支部ごとに置かれる事務所（現商工会事務局）に、経営指導員を兼務する事務所長と支援員、経営改善・地域振興担当者が配置され、支援・相談や地域振興などの事務を担当します。



金山町商工会は、商工会法が施行された翌年の昭和二十六年一月に設立総会を行い、同年六月一四日に第一回通常総会を開催してから今日までの約半世紀にわたり、金山町の商工業の総合的な改善発達を図る等のための組織として運営されてきました。

設立当時は、町の広報に記載されることもなかった出来事でありましたが、町の指導と協力はもとより、これまで多くの先人、先輩の方々と会員の努力により今日の商工会がありますことに対し、深く敬意と感謝を表するものです。平成に入り、少子高齢化と人口減少社会、経済社会構造の変化、また、市町村合併の推進など、商工会と取り巻く環境も大きく変化してあります。このため、商工会では、会員とともにこれらの環境変化に将来とも対応できるように金山町、真室川町、戸沢村及び鮭川村の各商工会との合併を行うことになりました。

本年四月一日からは、新しく「もがみ北部商工会」としてスタートし、合併後の本所は真室川町に置かれ、現在の



時代と環境の変化に対応できる商工会に

金山町商工会 会長 白倉周二

各商工会は、それぞれの支部として運営されることとなります。合併後においても、各商工会で実施されてきた事業は継続されます。

商工会の合併により、職員体制の整備・充実による専門的相談への対応強化、事務処理の効率化を図り経費の節減、広域的な事業の展開による組織の活性化と新たな事業の創出、会員の交流拡大などの多くの効果が期待されます。

しかしながら、一方では、エリア拡大による会員の参画意識の低下と併せ会員との距離の拡大が懸念されますので、日々変化する商工会を取巻く環境に対応するため、会員とともに職員は意識改革を行い、これまで以上に会員の巡回強化を図り、様々な課題処理に当たることが求められています。

今後とも金山町の商工業のさらなる発展のため、町をはじめとする、町内の関係機関との連携強化を行っていく所存ですので、これまで同様、ご理解とご協力をお願いいたします。